

小児内分泌学（改訂第3版）で採用された統一用語

専門用語・表現の統一		
採用する用語・表現 (日本語名 英語名)	採用しない用語・表現 ★補足	改訂第3版で統一された用語とは異なる用語を採用している場合は、その選択理由
疾患名・病態に関する用語		
5α還元酵素欠損症 5 α-reductase deficiency	5αリクターゼ欠損症	
GH分泌不全症 growth hormone deficiency	GH欠損症 ★原則、分泌不全を使う。しかし、①GH遺伝子そのものの異常などでGHが全く存在しない場合に「欠損症」と呼ぶことを容認、②単独でGHのみが低下している病態をisolated GH deficiencyと呼ぶが、その訳語として使用する場合は容認	
ゴナドトロピン依存性・非依存性 gonadotropin-dependent, gonadotropin-independent	GnRH依存性・非依存性	
視床下部－下垂体－副腎皮質系(略語として：HPA系) hypothalamic-pituitary-adrenal axis, HPA axis	★英語名： 日本内分泌学会用語集では、「hypothalamic-pituitary-adrenal axis」が記載されているが、日本医学会、日本小児科学会の用語集で記載されている「hypothalamic pituitary-adrenal axis」が使用頻度が多く、一般的であると判断した。	
チトクロームP450酸化還元酵素欠損症 cytochrome P450 oxidoreductase deficiency	P450オキシドリクターゼ、POR異常症、POR欠損症	改訂第3版では「P450酸化還元酵素欠損症」に統一されたが、OMINで「Cytochrome P450 oxidoreductase deficiency」が登録、PubMedでの使用頻度も増加している点、内分泌学会用語集では、酵素名として、「チトクロームP450酸化還元酵素」が登録されてことから、日本語名も「チトクロームP450酸化還元酵素欠損症」が適切であると判断した。
中毒性結節性甲状腺腫 toxic adenoma	Plummer病	
PTH不応性(病態として使用する場合) PTH insensitivity	★疾患名としてのPTH不応症は使用しない	
PTH分泌不全(病態として使用する場合) PTH deficiency	PTH不足	
異所性ACTH症候群 ectopic ACTH syndrome	異所性ACTH産生腫瘍	改訂第3版では「異所性ACTH産生症候群」に統一されたが、日本内分泌学会用語集との合致、使用頻度からも「異所性ACTH症候群」も多く、医学的推奨として適切と判断し採用した。
形成異常 dysplasia 腎泌尿器系奇形→腎尿路形成異常、奇形腫→テラトーマ、催奇形性→形成異常誘発性、合併奇形を有する→異常患者が形成異常を合併する、円錐動脈幹心奇形→円錐動脈幹心疾患	奇形	
高出生体重児 high birth weight infant	巨大児	
高インスリン血性低血糖症 hyperinsulinemic hypoglycemia	高インスリン血性低血糖、高インスリン血症性低血糖	改訂第3版では「高インスリン性低血糖症」に統一されたが、日本内分泌学会、日本糖尿病学会との合致、使用頻度も「高インスリン血性低血糖症」も多く、医学的推奨として適切と判断し採用した。
低身長症 short stature	小人症	
抗利尿ホルモン不適分泌症候群 syndrome of inappropriate secretion of antidiuretic hormone	抗利尿ホルモン不適分泌症候群	
子宮内発育不全／胎児発育不全→統一しない・適宜著者に任せる intrauterine growth retardation (IUGR)、fetal growth restriction (FGR)	★子宮内発育不全／胎児発育不全では、採用しない用語は定めず適宜著者に任せる	
神経性食慾不振症 anorexia nervosa	神経性食思不振症 神経性やせ症、神経性無食欲症	
自己免疫性多内分泌腺症候群 autoimmune polyglandular syndrome	多腺性自己免疫症候群	

多発性内分泌腫瘍症 multiple endocrine neoplasia	多発性内分泌腺腫症, 多発性内分泌腺腫瘍症	
小陰茎 micropenis	短小陰茎, 矮小陰茎, ミクロペニス	
タナトフォリック骨異形成症 thanatophoric dysplasia	致死性骨異形成症	
停留精巣 cryptorchidism	停留睾丸	
低リン血症性くる病 hypophosphatemic rickets	低リン血症性くる病	
糖尿病性昏睡 diabetic coma	糖尿病昏睡	
「癌」「がん」は内容により使い分ける	★「癌」は上皮性由来のがんのみを指すが、小児では非上皮性の肉腫や白血病などが多く、その際は「がん」となるため、内容により使い分ける	
副腎過形成 adrenal hyperplasia	副腎皮質過形成	
正期産児 term infant	満期産児	
顕性遺伝 dominant inheritance	優性遺伝 劣性遺伝 ★日本医学会からの報告(2022.1.24) 「顕性遺伝(優性遺伝)」「潜性遺伝(劣性遺伝)」と、 遺伝形式として明記することが必要と考えられることから、 4文字の用語として推奨用語を示す。 5年程度の期間を経た後は推奨用語に移行する。 (注)顕性(優性)、潜性(劣性)はそれぞれ遺伝形式を示す表現であることから、 推奨用語としてはそれぞれ「遺伝」を付与した「顕性遺伝」「潜性遺伝」として使用するものとする。	
潜性遺伝 recessive inheritance		
四肢の長い体型 (体幹/四肢のアンバランス)	類宦官体型, 宦官様体型	
解剖学的名称		
Henle係蹄 Henle's loop	ヘンレループ, ヘンレ係蹄, <i>loop of Henle</i> ★人名に由来するため、日本語でも元々の言語の表記(Henle)を採用	
蝶形骨洞	蝶骨洞	
ホルモン名・検査名に関する用語		
空腹時血糖値 fasting plasma glucose / fasting blood glucose 内容によって使い分ける (統一しない)	FBS ★英文誌 (特に専門誌) は全血と血漿を区別し、 fasting plasma glucose と fasting blood glucose区別して使用する 場合が多いため、測定方法によって使い分ける	
FT ₄ free thyroxine	fT ₄ , free T ₄ , 遊離T ₄	
G分染法 G-banding	G-banding	
IGFBP-3	IGF-BP3, IGFBP3	
IGF- I	IGFI, IGF-I	
LH/FSH	LH・FSH	
GnRH ※「LHRH負荷試験」の場合を除いて	LHRH	
サイログロブリン thyroglobulin	Tg	
アデニル酸シクラーゼ adenylate cyclase	アデニル酸サイクラーゼ, アデニレイトサイクラーゼ アデニルサイクラーゼ, アデニルシクラーゼ	
アンジオテンシン angiotensin	アンギオテンシン	改定第3版では「アンギオテンシン」に統一されたが、日本内分泌学会との合致、使用頻度からも「アンジオテンシン」も多く、医学的推奨として適切と判断し採用した。
下垂体性ゴナドトロピン pituitary gonadotropin	下垂体性腺刺激ホルモン	
カテコラミン catecholamine	カテコールアミン	
stimulatory G protein alpha-subunit, Gas	Gsa	改定第3版での「Gsa」に統一されたが、医学的推奨、最近の使用頻度からも「Gas」を採用
ブドウ糖 glucose	グルコース	

グルコースモニター/ブドウ糖濃度測定 内容によって使い分ける（統一しない） blood glucose monitoring/blood glucose measurement 内容によって使い分ける（統一しない）		改定第3版では「ブドウ糖濃度測定」に統一されたが、グルコースモニターとブドウ糖濃度測定は、厳密には意味が異なるため、内容によって使い分ける（統一しない）
ミネラルコルチコイド *ただし疾患名の「鉱質コルチコイド過剰症候群」はそのま mineralocorticoid	鉱質コルチコイド ミネラルコルチコイド	改定第3版での「ミネラルコルチコイド」に統一された。使用頻度は同程度であるが、日本内分泌学会との合致から、「ミネラルコルチコイド」を採用した。医学的推奨として適切と判断した。
ステロイドプロフィール steroid profile	ステロイド・プロフィール ステロイドプロフィール ★改定第3版では「ステロイドプロフィール」に統一されたが、慶応義塾大学で医療計画倫理申請の正式な検査名として「尿ステロイドプロフィール」が使用されているため「ステロイドプロフィール」を採用	改定第3版では「ステロイドプロフィール」に統一されたが、慶応義塾大学で医療計画倫理申請の正式な検査名として「尿ステロイドプロフィール」が使用されているため「ステロイドプロフィール」を採用
二量体 dimer タンパク質 ※栄養は「たんぱく質」	ダイマー 蛋白質	改定第3版では「蛋白質」に統一されたが、医学的推奨、他学会での使用、使用頻度からも物質名としては「タンパク質」を採用
グルココルチコイド glucocorticoid	糖質コルチコイド	
バソプレシン vasopressin	バソプレシン	
7回膜貫通型 seven-transmembrane	膜7回貫通型	
単量体 monomer	モノマー	
ドミナントネガティブ効果 dominant negative effect	優性（顕性）阻害効果	
ヨウ素 iodine	ヨード	
受容体 receptor	レセプター	
治療に関する用語		
GH治療 growth hormone therapy	GH補充療法 GH療法	改定第3版では「GH療法」に統一されたが、日本内分泌学会、小児慢性特定疾病情報センターでは「GH治療」と記載されているため、統一することが適切と判断し、「GH治療」を採用
LT ₄ levothyroxine	l-T ₄ , l-thyroxin, l-サイロキシン	
抗甲状腺薬 antithyroid drug	甲状腺薬	
甲状腺ホルモン製剤 levothyroxine(LT4)	甲状腺剤	改定第3版では「甲状腺ホルモン薬」に統一されたが、甲状腺学会では「甲状腺ホルモン薬」ではなく、「甲状腺ホルモン製剤」が一般的に使われている。日本薬局方による分類名（添付文書）に従っている。また2022年に改訂した、厚労省「重篤副作用疾患別対応マニュアル」での記載に合致することが適切と判断した
造血細胞移植 hematopoietic cell transplantation	造血幹細胞移植	
デキサメタゾン dexamethasone	デキサメサゾン	
免疫チェックポイント阻害薬 immune checkpoint inhibitor	免疫チェックポイント阻害剤	
遺伝子名・遺伝子に関する用語		
ANOS1 もしくはANOS1 (KAL1) /KAL1 (ANOS1)	KAL1	
NCCT	NCC	
POU1F1	PIT1	
アリル allele	アレル	
エクソン exon	エキソン, exon	
癌抑制遺伝子 ※原則「癌抑制遺伝子」 antioncogene	腫瘍抑制遺伝子	
文脈により、形容詞的用法では「接合性」、名詞的用法では「接合体」とする	ホモ（ヘテロ）接合型	
単位		
μU/mL	mIU/L	
単位（LHRH）：mIU/mL	単位（LHRH）：IU/L	